

平成29年 第3回帯広市教育委員会会議録

1. 平成29年2月26日 日曜日 9時30分～10時30分
帯広市教育委員会会議をとまちプラザ 会議室304に招集する。

2. 本日の出席委員

教 育 長	嶋 崎 隆 則
教 育 委 員	田 中 厚 一
教 育 委 員	藤 澤 郁 美
教 育 委 員	佐々木 しゅり
教 育 委 員	塩野谷 和 男

3. 本日の議事日程

日程第1	会議録署名委員の指名について
日程第2	議案第11号 帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する基本方針について
日程第3	その他(1) 寄附受納について その他
日程第4	議案第12号 平成29年度帯広市教育行政執行方針について【非公開】
日程第5	議案第13号 帯広市職員定数条例の一部改正について【非公開】
日程第6	報告第7号 教職員の処分について【秘密会】 報告第8号 教職員の処分について【秘密会】

嶋崎教育長

ただいまから、平成29年第3回帯広市教育委員会会議を開会いたします。

出席委員は全員であります。

会議は成立しております。

ここで諸般の報告をいたします。

(福原課長 報告)

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、藤澤委員及び塩野谷委員を指名いたします。

日程第2、議案第11号、帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する基本方針についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

広瀬 部長

議案第11号、帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する基本方針についてご説明いたします。議案書1ページからでございます。本案は帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する基本方針を最終決定しようとするものでございます。今回の基本方針決定の提案に至る経過につきまして若干ご説明させていただきます。これまで、昨年11月の第20回教育委員会会議に、帯広市立小中学校適正規模・適正配置市民検討委員会から提出されました、帯広市立小中学校の学校規模等に関する検討報告書を踏まえ策定した基本方針素案を、12月の第22回教育委員会会議に素案を修正しました基本方針原案を、本年2月の第2回教育委員会会議に原案に対するパブリックコメント及び地域説明会の結果並びに基本方針案をご報告させていただいたところでございます。このたびの基本方針は、案からの変更はございません。今後の取り組みといたしましては、本日の教育委員会会議で基本方針をご決定いただければ、この基本方針をもって、小中学校におけます適正規模の確保等に向けた計画を策定してまいりたいと考えております。以上よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

藤澤 委員

今後の具体的なスケジュールについて、決まっていれば教えていただきたいと思います。

広瀬 部長

新年度になりましたら、具体の計画になろうかと思えます。どのように進めていくかということは思案中でございますが、地域の意見をよく聞きながら、確保する上での取り組みについて進めてまいりたいと考えてございます。

藤澤 委員

地域住民への配慮は必要だと思いますので、十分に時間をかけて進めていただきたいと思えます。

嶋崎教育長

他になければ、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第11号、帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する基本

方針については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。
異議なし。

各 委 員
嶋崎教育長

ご異議なしと認め、議案第11号は決定されました。

日程第3、その他に入ります。

その他(1)寄附受納についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

福原 課長

企画総務課の寄附についてご説明いたします。議案書63ページでございます。八の日ジャンプの会様から平成29年2月16日に割り箸ペレット燃料425kg、1万2,750円相当を、清川小学校、豊成小学校の教育環境の整備のため、ペレットストーブがある学校にご寄附をいただいたものでございます。当課へは3回目、総額3万6,750円相当になります。以上です。

北沢 館長

百年記念館では、幕別町に在住の〇〇〇〇様より2月15日にゼニガタアザラシの本はく製1点のご寄附をいただきました。博物館資料として活用してほしいという趣旨でございますので、3月10日から新着資料展を開催いたしますので、その中で皆様にご覧いただくとともに、様々な形で活用していくものでございます。以上です。

柚原 園長

動物園では、埼玉県所沢市在住の〇〇〇〇様より、2月6日に現金3千円を動物展示施設等の整備及び動物の購入という趣旨でご寄附いただきましたので、おびひろ動物園ゆめ基金に積み立てするものでございます。以上です。

嶋崎教育長
各 委 員
嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

事務局からその他説明事項はありますか。

事 務 局
嶋崎教育長

ございません。

事務局からは特にないようですが、各委員から他にご意見、ご質問等があればお受けいたします。

藤澤 委員

冬季アジア大会について、帯広市教育委員会としても万全な準備を整えて、大変ご苦労様でしたということをお伝えしたいと思えます。仕事の関係で私は会場には行けませんでした。実際に開催して良かった点や改善点などがあれば、お聞かせいただければと思います。

敦賀 室長

このたび開催されました冬季アジア札幌大会は今夜の閉会式をもってすべての日程が終了することになり、教育長にも参加いただくことになっております。2月20日から23日までは明治十勝オーバルにおいてスピードスケート競技が開催されました。4日間の日程で1万469人、1日平均約2,500人ですけれども、初日と2日目に会場の収容能力を上回る3,600人、3,400人の観客が会場に詰め

掛けました。地元の選手を中心に日本の選手の活躍が期待されるプログラムがこの2日間に集中して、入場制限がかかり、外でお待ちいただくことになりました。これに対しては、とかちプラザからシャトルバスが出ていましたが、出発時間を調整して、その間とかちプラザのアトリウムでパブリックビューイングの方でご覧いただいたり、応援グッズの製作場所で応援グッズの準備をしていただいた後、お越しいただく形となりました。会場の外でお待ちいただくざるを得ない方が一時的に200人から300人くらいいらっしゃいましたが、中での競技の様子を随時お知らせするとカイロをお配りしました。結果的にはすべての方が入場することができましたが、しかしながら、中はすごい人混みでしたので、具合が悪くなったお子さんやご年配の方が数人おりまして、医務室等で対応をいたしました。全体的には大きな混乱もなく、楽しんでお帰りいただけたと思います。この大会を契機に初めてオーバルを訪れた方が多数いらっしゃいましたので、場所のPRにもつながったと思います。さらに受け入れ態勢を作るために地元の経済界が中心となって、選手村では日本文化に触れられるように折り紙や書道コーナーを設けたり、中心部にフラッグを掲げたり、外国語メニューの充実を図るなどが多く行われて、これから先のインバウンド対応にも十分貢献できる体制ができたと思っております。開会式におきましては、本来、冬季アジア札幌大会が正式名称でございますが、帯広は1競技の開催地ということになりますが、開会式の宣言の時に、皇太子殿下、アジアオリンピック競技会の主催者の会長が、それぞれ札幌・帯広で開催される大会としっかりとっていただきました。そういう意味ではアジア各国のみならず、世界各国に帯広の名前がPRできたものと考えます。以上です。

藤澤 委員
嶋崎教育長

ありがとうございます。

他になければ、ここで会議の進め方についてお諮りいたします。

次の日程第4の案件については、帯広市教育委員会会議規則第16条第1項第6号により、日程第5の案件については、同項第4号により非公開に、日程第6の案件については、同項第2号により秘密会にしたいと存じます。

これにご異議ありませんか。

各 委 員
嶋崎教育長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのとおりに取り扱いたします。

これより会議を非公開といたします。

日程第4、議案第12号、平成29年度帯広市教育行政執行方針についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

中野 部長

議案第12号、平成29年度帯広市教育行政執行方針についてご

説明いたします。議案書49ページになります。本編は51ページからになります。本案は市議会における平成29年度予算案の審議に先立ち、帯広市教育基本計画の着実な推進に向けて、教育行政の基本的な考え方や主な取組みなどを示すものでございます。まず、52ページをお開きいただき、目次をご覧ください。本方針は、大きく、1. はじめに、2. 基本的な考え方、3. 主な取組み、4. むすびの4つで構成しております。次に53ページをご覧ください。1. はじめにでは、時代の潮流や国の動向、教育を取り巻く現状について述べております。次に55ページ、2. 基本的な考え方におきましては、時代の潮流や国の動向を踏まえて、帯広市教育基本計画の基本理念の実現に向けて進めていく、施策の基本的な考え方を2つの基本目標と、それを実現する基盤づくりごとに記載してございます。56ページ中段以降の3. 主な取組みにおきましては、帯広市教育基本計画の体系に従い、平成29年度の主な事業について記述してございます。なお、58ページの基本目標を実現するための基盤づくりでは、昨年、小中一貫教育制度が導入されたことを踏まえ、本市における対応について検討することを記述してございます。4. むすびにおきましては、昨年の台風10号の際に避難所の運営を手伝った生徒の姿に触れた上で、今後も生きる力を育む教育を推進していくこと、また、豊かな自然や先人が培ってきた英知などに学び、未来につなげる人づくりに取り組んでいくことについて記述してございます。説明は以上でございます。これより全体を通して朗読させていただきますので、よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

福原 課長

それでは私から朗読させていただきます。53ページをご覧ください。教育行政執行方針、1. はじめに、現在、わが国においては、未来への投資を経済政策のキーワードに、一億総活躍社会の実現や地方創生の推進に向け、様々な施策が推し進められています。これらの実現にあたっては、未来社会を支える人材の育成と一体的に取り組む必要があり、教育の果たす役割は極めて重要です。人口減少がこれまで以上に加速することが見込まれる状況下にあって、将来にわたって発展し持続する社会を実現するためには、一人ひとりが持てる能力を最大限に発揮し、意欲ある全ての人々が社会参画できる環境を構築する必要があります。また、情報技術の飛躍的な進化等により社会が予測を超えて変化していく時代にあって、未来を生きる子どもたちには、基礎的な学力や体力はもとより、主体的に課題を解決する力や果敢に挑むチャレンジ精神、思いやりの心や多様性を受容する力などを身につけることが求められます。このような中、義務教育においては、学校教育制度の多様化・弾力化を推進するため、昨年4月に小学校と中学校の9年間を通じて系統的な教育を行

う小中一貫教育制度が導入されたほか、平成30年度から、これまで教科外の活動であった道徳が、いじめなどの現実の問題やよりよく生きることなどについて、児童生徒が自ら考え、議論することを目指し、教育課程上の特別の教科として実施されます。また、次期学習指導要領においては、2030年の社会やその先を見通し、現在小学校高学年で実施されている外国語活動を中学年から実施し、高学年では教科として位置づけるほか、小学校から高等学校までの全教科で主体的・対話的で深い学びを重視することなどが打ち出されています。さらに、生涯学習においては、今後の社会の変化や国際的な動向を踏まえて、社会人として求められる資質や能力について検討されているほか、社会や地域の課題が複雑化の中で、一人ひとりが地域について学び、その学習成果を活用につなげる学びと活動の循環を形成し、住民が自らの力で課題を解決する社会の実現に向けて検討されています。

2. 基本的な考え方、帯広市教育委員会としては、こうした動向を踏まえて、本市の教育大綱でもある帯広市教育基本計画の基本理念として定めた、ふるさとの風土に学び人がきらめき、人がつながる、おびひろの教育を実現するため、引き続き、次の3つの柱により、それぞれの施策を進めてまいります。

一つ目の基本目標、次代を担う人づくりでは、知識や技能といった認知的能力と、意欲や協調性、勤勉さなどの非認知的能力を、地域と関わりを持ちながら、児童生徒がバランスよく身につけられる教育活動を推進します。また、時代の変化に適応し、自立して生活できるよう、市民の主体的な学習活動を促進します。

二つ目の基本目標「ともに学びきずなを育む地域づくり」では、市民によるまちづくりへの参画を一層推進するため、郷土文化に対する理解や、学校や社会教育施設での活発なボランティア活動の促進などに取り組みます。

三つ目の基本目標を実現するための基盤づくりでは、中学校区を中心として幼稚園・保育所・小学校などの連携を推進するとともに、義務教育9年間を見通した児童生徒の学びをさらに深めるため、小中一貫教育について検討します。さらに、学校が家庭や地域と連携を進め、地域ぐるみで子どもや学校を応援する取組みの充実を図るほか、経済的に困難な家庭への就学支援を拡充します。また、新たな総合体育館の整備を進めるとともに、社会教育施設の利用促進を図ります。

3. 主な取組み、(1) 次代を担う人づくり、児童生徒の学習活動では、学校が家庭や地域、社会教育施設などと連携しながら、体験活動や外国語学習、食育など幅広い分野において、帯広の地域性や自然を教材として、様々な学習を取り入れる、帯広版アクティブ・ラーニングを推進します。また、いじめや不登校については、適応指導教室やこころの教室相談員など、個別相談・支援体制を引き続き推進し、未然防止や早期解決に努めます。生涯学習

においては、市民の学習ニーズの多様化を踏まえ、市民大学講座などにおいて、引き続き、魅力ある学習機会の提供に努めます。また、クロスカントリースキーを中心とした冬を楽しむイベントを開催し、市民の冬期間における体力・健康づくりや人と人との交流を図ってまいります。(2)ともに学びきずなを育む地域づくり、百年記念館の博物館講座、図書館の郷土資料展示などを引き続き実施し、地域の歴史・文化を学び、郷土理解を深める機会を提供します。また、図書館など社会教育施設において、ボランティア養成講座を引き続き開催するとともに、学びを生かせる自主活動の場を提供してまいります。このほか、市民が主体的に実施する能楽の公演や体験教室の取組みを支援するなど、市民が良質な芸術・文化にふれる機会を提供します。(3)基本目標を実現するための基盤づくり、エリア・ファミリーで進められている義務教育9年間を通した小中学校の連携をさらに深めながら、帯広市における小中一貫教育への対応について検討を行うほか、小中学校における適正規模の確保等に向けた計画を策定します。また、学校・家庭・地域が連携して子どもを育む、こども学校応援地域基金プロジェクトを推進し、学校支援地域本部をはじめとする様々な団体の交流を深め、人材の育成や活動の充実に取り組みます。このほか、就学援助については、新たにPTA会費・生徒会費を支給費目に加え、保護者の経済的負担の軽減を図ります。新たな総合体育館の整備運営については、帯広市で初めてとなるPFI方式により、設計及び本体工事に着手してまいります。また、図書館、百年記念館、動物園、児童会館において、四館連携事業を引き続き実施し、社会教育施設の利用促進につながる、魅力ある学習機会を提供してまいります。4. むすび、昨年、台風10号による記録的な豪雨の影響で河川が氾濫する恐れが生じたため、市内では35年ぶりに避難所が開設され、小中学校もその役割を担いました。大勢の市民が避難する中で、同じく避難してきた生徒が、自発的に避難所の運営を手伝う姿が見られ、思いやりの心や自ら考え行動する力が着実に育っていることを感じる場面がありました。こうした子どもたちの主体性を伸ばし、生きる力を育む教育を、学校・家庭・地域と連携して、今後も推進してまいりたいと考えています。また、昨年10月から新たな教育委員会体制となりましたことから、あらためて市長との連携を一層密にしながら、豊かな自然や先人が培ってきた英知、開拓の歴史などに学び、地域社会全体で、未来につなげる人づくりに取り組んでまいります。以上です。

嶋崎教育長
田中 委員

これから質疑に入ります。

何点か確認を含めて質問させていただきたいと思います。54ページに、国が小中一貫教育制度を導入したということが前提として

あって、56ページに、小中一貫教育について検討しますという帯広市教育委員会の考え方を述べています。プラス58ページにエリア・ファミリーの関係について書かれています。読むとエリア・ファミリーは小中の連携を深めることで、小中一貫教育ではない気がします。小中一貫教育について、検討する具体的なイメージをどうお持ちなのかお聞かせいただきたいと思います。それから、私の勘違いかもしれませんが、55ページ、次代を担う人づくりのところで、認知的能力と非認知的能力という言葉が新鮮な言葉だったので確認なのですが、引用の文献が何かあるのかお聞きします。それから、帯広市では知徳体の体の部分について、今回、主立った形で出てきていない気がするのですが、どうお考えでしょうか。それから、57ページの生涯学習のところで、クロスカントリースキーを中心とした冬を楽しむイベントを開催と記載がありますが、今までも行っていたのでしょうか、確認をしたいのでお願いします。

村松企画監

今のご質問中、小中一貫の具体的なイメージというお話がございましたが、エリア・ファミリーの取り組みにつきましては、現在ある学校区の中で中学校区を単位としたエリア・ファミリーを14のエリアで形成しています。田中委員がおっしゃられたように、どちらが先かと言うと、エリア・ファミリーの考え方が小中連携の形で先に出てきていますけれど、将来的に小中一貫教育を目指していく中で、エリア・ファミリーの考え方がそのベースになるだろうということで、今、計画を進めているところです。適正配置の関係もございしますので、適正配置とエリア・ファミリーの考え方の整合性を十分に持たせながら、現在、小中一貫教育をどう具体的な形で進めていき、エリア・ファミリーがより一層充実していくかという視点で、内部で検討している最中でございます。いずれにいたしましても、小中一貫教育については、小中連携のさらに具体的な連携の姿として、小中一貫教育と進んでいく方向性については、現在ここにお示したような形で教育委員会として考えてございます。次に認知的能力と非認知的能力につきましては、文部科学省においても、このような言葉を使っております。また、市長も庁内の会議で発言することもございます。これまでの知識を基盤とした、覚えて再現する能力だけではなく、そこには学力の三要素といわれる中の1つに、学ぶ意欲というのが非常に大きく、これは認知的能力ではなくて、表に出てこない非認知的能力というイメージで、使わせていただいております。前回も使わせていただいております。以上です。

中野 部長

ただ今、教育行政執行方針の中に、生きる力の知徳体うち体の部分について、あまり触れられていないというお話がございましたけれど、今回、教育行政執行方針につきましては、構成について、これまでと若干変えたところがございます。これまで基本的には万遍

なく教育基本計画に触れたような形で作成してきておりますけれど、新たな教育委員会体制になったということもございまして、なるべく重点的な部分に絞り込んで、全般的なボリュームを縮小して整理しようという方針で臨んだものですから、計画全般について満遍なく触れられている形ではなく、触れられていない部分も若干あるかと思えます。体力について、例えば、56ページの次代を担う人づくりの中で、食育について触れているところもあり、体に係わるものでございますし、その他、子どもたちの生きる力を育む中で全体的に網羅させていただいたという認識でございます。

敦賀 室長

クロスカントリースキーの関係ですが、昨年度までは八千代牧場や岩内仙峡を中心としてクロスカントリースキー大会を開催しておりました。今年度は台風の影響で一部のコースが開設できず中止となっております。それ以外にクロスカントリー教室やバスで行くクロスカントリースキーツアー、今年は上士幌町糠平湖タウシュベツコースへ行ってまいりました。これまでは大会を中心に、競技者を中心に行っていた取り組みですが、帯広の森のクロスカントリーコースは自由に使えることになっており、ここを利用して散策を兼ねた冬の体力づくりをされている方が徐々に増えてきていますし、また、クロスカントリークラブがございまして、そちらの教室の参加者も増えているということもございます。競技者中心のみならず、初心者も対象とした子どもからお年寄りまで、クロスカントリースキーをきっかけにして、冬の自然観察や冬の遊びを楽しめるようなイベントに取り組んでまいりたいと検討しているところでございます。

田中 委員

ありがとうございます。小中一貫教育について検討しますと書かれているので、具体的な形で何か組織を立ち上げて検討していくと読めるのですが、今のお話ですと、基本はエリア・ファミリーをベースに、小中一貫教育をめざして検討を始めたという考えですね。

嶋崎教育長

今回、明確に書かせていただいたのは、これから適正配置などで、小中一貫の義務教育学校やいろいろな形態を考えておかないと、いろいろな意味で片手落ちになってしまう可能性があります。先に義務教育学校などがあるというよりも、法制度があるため、我々としては検討していかなければならない課題ということも含めて、こうした書きぶりにさせていただいたところです。

塩野谷委員

2点質問させてください。1つ目は、現在、小学校高学年で実施されている外国語活動を中学年から実施するというのはとてもいいことだと思います。できれば低学年から実施していただきたいと思いますが、今はどのような外国語活動をやられているのですか。今後、低学年に持っていくにあたって、どのような形で進めていく予定なのか教えてください。2点目は、先ほどから小中一貫教育の話

がありましたけれど、これから学校の小規模化というのが課題で、小規模化によるデメリットをどのようにカバーしていくかということがあります。ローカルも含めて、物理的には小規模校はいくつか置かざるを得ないと思いますが、縦の小中一貫もあるけれど、ロジカルに、少しクラスが離れているという感覚で水平的に展開した運営はできないものか、どのように考えているのか教えてください。

村松企画監

外国語活動について、現在、小学校5・6年生で週1時間の外国語活動という時間を実施していますが、これは教科ではありません。コミュニケーション能力を養うことを目的として、ゲームや会話を中心とした活動を実施しております。本市においては、ALTが派遣されて、担任の先生とALTのT・Tの形で、半分近く実施している状況です。今度、学習指導要領の改訂に伴いまして、5・6年生の外国語活動を中学校で行われている英語と同様の教科にし、代わって現在5・6年生に行っている外国語活動を3・4年生に下ろして、3年生からゲームを中心としてコミュニケーション能力の素地を養うということになります。5・6年生の英語科として、読む・書く・話す、単語や文法を覚えるという中身も入っていきます。そして、中学校1年生に上がったときの英語科との連携が非常に大切になるものと認識しております。時数につきましては、現在5・6年生は35時間で、新しくなりますと、3・4年生は同じく35時間、5・6年生は週2コマ、70時間と時数が増えてまいります。小学校では平成32年から、中学校では平成33年から学習指導要領が完全に実施されます。しかしながら、その前に助走期間が必要ということで、実際には平成30年から、外国語活動、また、新しい学習指導要領の取り組みが始まっていくと考えております。

塩野谷委員

特にコミュニケーションに関しては低学年の恥じらいの少ない年齢から始めていただきたいと思います。文法などは中学校や高校でもいいと思いますが、中学校、高校や大学で英語を勉強しているのにコミュニケーションが取れないのが実態ですから、よろしく願います。

広瀬 部長

小中一貫教育に係わります一貫校の配置についてのご質問だと思いますけれど、様々な形態がございます。1つの建物に小学校、中学校が入っている場合、市内にもありますが隣接している場合や少し離れている分離型などいろいろございます。帯広市では実施するとすれば様々な形があろうかと思っております。ご質問の考え方を持っているかということでございますけれど、これから検討に入ることによって、その他にも施設が老朽化しているため、施設整備の考え方もありますので、それも含めてどのような形が一番いいのか、今後検討してまいりたいと考えております。

嶋崎教育長

例えば、道立高校などでも間口の問題や町村では閉校の問題もご

ざいます。道では小規模校を残すために、サテライト校のような連携校でICTを活用するとか、先ほど塩野谷委員がおっしゃったとおり水平展開と垂直の部分は同じ課題ではないかと思えます。どうしても一定の規模がないと教員の配置が難しくなります。残していくにはどのようにやっていくかということになります。

藤澤 委員

次代を担う人づくりのところで、帯広版アクティブ・ラーニングを推進すると書かれています。教育委員会として学校へ下ろしていくものか、学校で考えてやっていくものか、具体的にどのような形で進めていくのか教えていただきたいと思えます。

村松企画監

ここにお示ししております帯広版アクティブ・ラーニングの考え方につきましては、教育委員会として、現在行われている各活動をこういう呼び名で一括りにしながら、学校にお示ししていこうというものでございます。現在も実際に帯広版アクティブ・ラーニングという名前で様々な機会にお話しをしておりますが、まだ十分に一般の先生にまで認識されていないとも考えています。具体的に今、帯広で行われている学校に対する人の係わり、教育環境を生かしたもののや場所の係わり、時間の係わりというカテゴリーを3つにし、学校を取り巻く環境をアクティブに使っていこうという考え方で整理しているものです。教室の中から外に飛び出して子どもたちが学んでいく姿を総称して、帯広版アクティブ・ラーニングという言い方をしております。新年度については、この言葉をしっかり定着させながら、学校の教室だけの学習活動ではなく、まさにアクティブな帯広の教育環境を生かした教育活動が進めるように全面的に出していきたいと考えております。

嶋崎教育長

昨年、地方創生の総合戦略を帯広市でも作っておりまして、1つの取り組み項目として、帯広版アクティブ・ラーニングという言葉を出して取り組んでいこうとしております。今の話のとおり、具体的にこれというよりも、いくつかの塊があって取り組んでいくという形で、ここでも出させていただいております。

佐々木委員

2点質問があります。まず、53ページ、下から3行目に、多様性を受容する力などを身につけることが求められますと、非常にさらっと触れているのですが、多様性を受容する力というのは、教育においても、大人になってからもとても必要なことで、今も世界的にも多様性を受容などがクローズアップされている中で、子どもにとっても大人にとっても、非常に重要なことだと思います。一言触れられてはいるものの、多様性といってもいろいろあると思いますけれど、多様性を受容する力を身につけさせるために、そのあとに何も触れていないので、もう少し厚みのある記述があってもいいと思います。なぜ、ここに引っかけたかと言いますと、今の社会情勢もあることに加え、いじめ問題についてもさらっと触れ

られてはいますけれど、いじめ問題を解決するためのことはいろいろ書かれています。主に被害者の子どもが不登校になった時にどうするかということに重点を置かれていると思います。いじめを生ませないことに注目すると、まさに多様性の受容する力を子どもに身につけさせると、いろいろな人がいて当たり前だということを大人から説明して、学んでもらうことは、いじめを減らすことについても非常に重要だと思いますので、そことリンクさせて書かれていてもいいのではないかと思います。あまりにもさらっと流されているので、教育の上では大事なことではないかと思って気になりました。もう1点は、最後に台風の被害のことが書かれています。教育施設など壊れたものがたくさんあって、復旧に向けての話を一言でも載せられたらいいのではないかと思います。

橋場 部長

ただ今、ご指摘いただきました、いじめや差別に関する教育の重要性については我々も認識しております。教育行政執行方針の書きぶりについては、先ほど中野部長からもご説明させていただいたように、できるだけ簡潔にということがあり、すべてのことは書いていないわけであり。お話にあったことについては、今回、道徳教育の重視、いじめなどの現実問題や社会で起きている目の前の事象について、子どもたちが議論し、かつ考えることが大事だということで、それだけの理由ではありませんけれど、今回、道徳の充実が打ち出されております。このことについては、1時間の中だけでできることではなく、学校教育全体の中で取り組んでいくべきものです。当然、知徳体の知の部分にあっても、正しい判断力を養わなければならないですし、学校教育を挙げて取り組んでいく必要があると認識をしております。この後、教育行政方針等を踏まえまして、学校教育指導の重点というものを作り上げていきます。その中には人権に関わる取り組み、いじめに関することをより詳しく、具体的に学校に示していくこととなります。先ほど、帯広版アクティブ・ラーニングの中で、人の係わりという話がありましたけれども、実際に様々な外部の方、例えば法務局の方のお話を聞いたり、障がいを持たれている方との関係を生かしながら、体験を通してそういった心を育てていくことも、帯広版アクティブ・ラーニングの中に生かしていきたいと考えております。以上です。

森川調整監

台風の被害の件ですけれども、執行方針の中には具体的には出てきておりませんが、執行方針後に来年度予算の説明を予定しております。公園の方でまず現状復帰する予算を上げてきておりますので、教育費ではそれ以外の部分、安全管理の予算計上をする予定でございます。

葛西調整監

補足いたします。最後のむすびの部分で、台風の話を持ち出していますのは、被害の方に頭がいかってしまうことは想定していません

でしたが、子どもたちが避難所で自主的に活動を手伝ったところに視点を置き、子どもたちがたくましく育っていること、我々の今までやってきた教育が実を結びつつあるのではないかということのを少し強調したく、今後も続けていきたいという趣旨で記載したところでございます。

佐々木委員

わかりました。

田中 委員

今の葛西調整監の話ですが、小中学校ですよ。児童・生徒ではなくて、生徒だけでいいのでしょうか。

葛西調整監

すべての避難所でそういうことが起こったかどうか聞いてはおりませんが、小学校の避難所でその卒業生が手伝ったという話で、中学生や高校生が手伝ったということを伝え聞いたものですから、そこを引用しております。

田中 委員

わかりました。

嶋崎教育長

他になれば、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第12号、平成29年度帯広市教育行政執行方針については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

嶋崎教育長

ご異議なしと認め、議案第12号は決定されました。

日程第5、議案第13号、帯広市職員定数条例の一部改正についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

中野 部長

議案第13号、帯広市職員定数条例の一部改正についてご説明いたします。議案書61ページをご覧ください。本案は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、議会の議決を経るべき事件の議案について、教育委員会の意見を述べようとするものであります。議案書62ページをご覧ください。帯広市職員定数条例の新旧対照表のうち、教育委員会関係分を記述してございます。第2条第1項第7号でございます。本案は平成29年度の職員定数を調整し、その結果として、職員配置計画に基づいて、全庁的な職員定数を改正するものでございます。教育委員会の事務局の職員のうち、アに記載のある、教育委員会の事務局及び学校以外の教育機関の職員につきまして、改正前126人から改正後125人の1名の減とするものであります。以上よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。

嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

各 委 員

ありません。

嶋崎教育長

別になれば、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第13号、帯広市職員定数条例の一部改正については、原案

各 委 員
嶋崎教育長

のとおり了承することにご異議ありませんか。

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第13号は了承されました。

これより会議を秘密会といたします。

(以下 非公開)

嶋崎教育長

以上で本日の日程はすべて終わりました。

これをもちまして、平成29年第3回帯広市教育委員会会議を閉会いたします。